

宮城県医師会新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策本部ニュース（令和2年2月19日）

この度の、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関しては、連日マスコミで報道され、最前線で対峙する私たち医師は、大変な緊張感を持って患者さんの対応その他に追われていると思います。

宮城県医師会でも、1月29日に「宮城県医師会新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、以後以下のような活動をしてきました。宮城県での感染例も報告される可能性は大であり、今後、宮城県医師会会員の皆様に、逐次県医師会の活動内容などをご報告したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

1. 1月29日（水） 第46回本会常任理事会において「宮城県医師会新型コロナウイルス対策本部」の立ち上げを承認した。
2. 1月30日（木） 第1回新型コロナウイルス対策会議を開催。マスク不足に関して、県内の市町村のマスク備蓄数を調査し、配布するように要望。
3. 日医に対して、日医主催の全国会議の延期（中止）や各都道府県医師会に対して、緊急アンケート調査を行い、各地の状況把握を促した。また、相変わらず、マスク不足、消毒液不足であることも報告した（釜菴担当常任理事に対して）。
4. 2月6日（木） 宮城県との共催により、新型コロナウイルス感染症対策セミナー（医療機関向け）を開催。午後7時から、宮城県庁2階講堂で、「新型コロナウイルス感染症の現状と対応について」講師は、東北医科薬科大学医学部感染症特任教授 賀来満夫先生。
5. 2月7日（金）より 宮城県が、県内各市町村が備蓄しているマスクを一時的に借り上げ（30万枚）、宮城県医師会に配布を依頼する旨連絡あり、順次郡市医師会へ配布する。
6. 2月17日（月）に政府から発表された COVID-19 が疑われる患者さんの受診行動などに関して、宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室担当者と当会の藤盛常任理事が会談。現在は、県内での PCR 検査は1日20名程度、帰国者、接触者外来（17か所、非公開）の1日の受け入れは20名程度と判明。これでは、宮城県で陽性患者が発生したときに、混乱が生じることは明白であり、PCR 検査や受け入れ外来の拡充を強く県当局に求めたい旨、2月19日の常任理事会で討論した。なお、不特定多数の方々が出入りするホテル、レストラン、などでの対応も不十分であり、

マスコミを介した広報も必要であると感じている。更には、宮城県の対策本部に医師が入っていないことは問題であり、県当局に要望した。

7. 日医に要望していた全国会議の中止について、2月19日の「医療政策シンポジウム」はTV会議となり、またCOVID-19に関する担当常任理事のTV会議も開催される予定となった。さらに、3月20、21日に予定されている東北厚生局主催の集団的個別指導の延期も直接申し入れ、正式決定ではないが、延期に関して前向きな返事を頂いた。